

流	遺	曉 <sub>ニ</sub>	鞭 <sub>ベ</sub>	
星	恨 <sub>ナリ</sub>	見 <sub>ル</sub>	声 <sub>セイ</sub>	題 <sub>ト</sub>
光	十	千	肅	不 <sub>フ</sub>
底 <sub>ニ</sub>	年	兵 <sub>ノ</sub>	肅	識 <sub>シ</sub>
逸 <sub>ニス</sub>	磨 <sub>ミガク</sub>	擁 <sub>スルヲ</sub>	夜	庵 <sub>アン</sub>
長	一	大 <sub>たい</sub>	過 <sub>わたル</sub>	擊 <sub>ツ</sub>
蛇 <sub>ヲ</sub>	劍 <sub>ヲ</sub>	牙 <sub>ガヲ</sub>	河 <sub>ヲ</sub>	機 <sub>キ</sub>
				山 <sub>さん</sub>
				凶 <sub>ニ</sub>
				賴
				山
				陽

（山  
陽  
詩  
鈔）

【書き下し文】

不識庵 機山を撃つ図に題す  
鞭声 肅肅 夜 河を過る  
暁に見る 千兵の大牙を擁するを  
遺恨なり 十年一剣を磨く  
流星 光底に長蛇を逸す

【口語訳】

上杉謙信が武田信玄を撃った絵図に書き記す  
馬に鞭を当てる音は張り詰めた空気のなかで静かに響き、（軍勢は）夜中に千曲川を渡る。  
明け方には兵士が大挙して謙信の旗印を守っている様子が見えた。  
なんと残念なことか。長い年月をかけて一振りの剣を磨き続けてきたにもかかわらず、  
流れ星のようにきらめく名刀のもと、邪悪で残忍な信玄を討ち損ねてしまった。